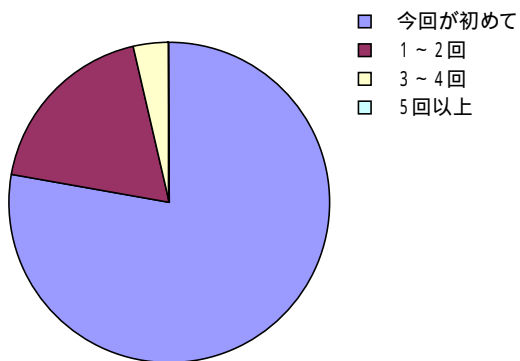


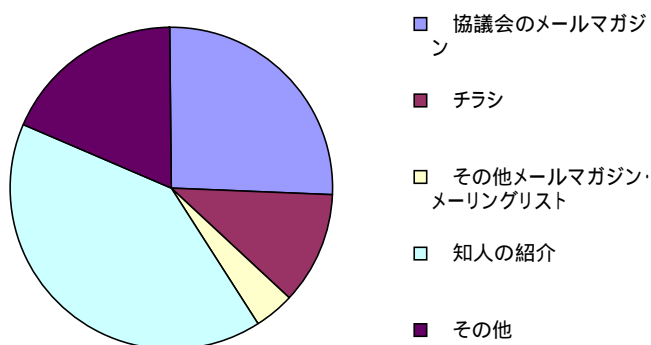
研修会 “ 協働の住まい・まちづくり～想いが重なる住まい・まちの実現に向けて～ ”
 参加者アンケート 集計結果
 (参加者数 29 名、回収数 27 名、回収率 93.1%)

1. 住まい・まちづくり活動推進協議会が主催するイベントへの参加回数について教えてください



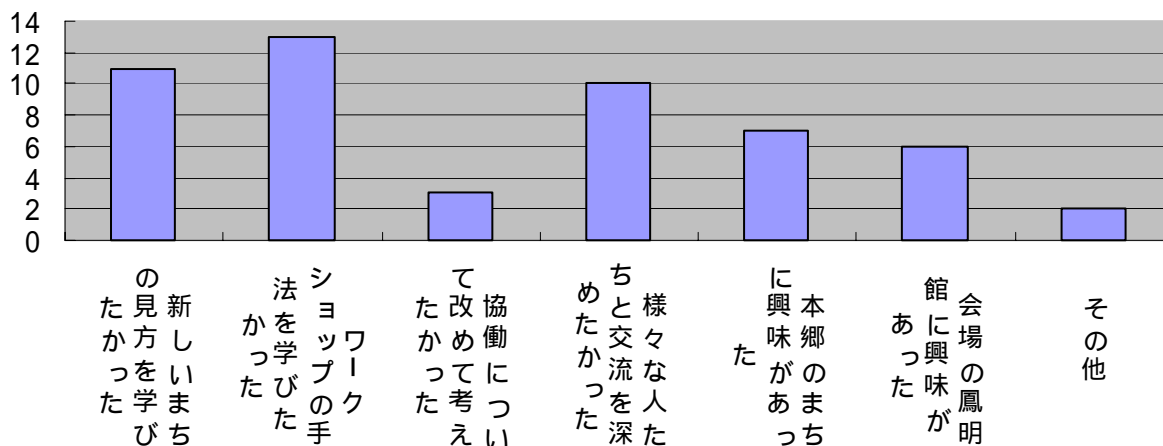
初めての参加者が多いが、3~4回の方もおられる。初めての方には、これをきっかけに当協議会のファンになってほしい。

2. 研修会は何で知りましたか



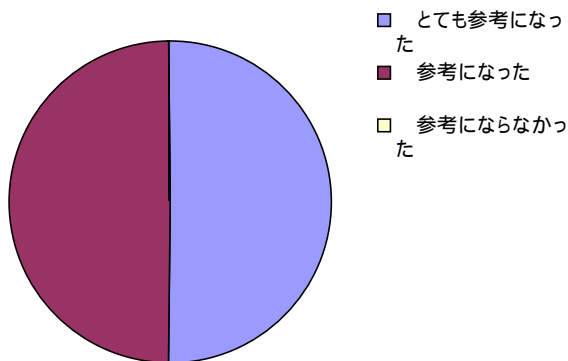
知人の紹介が多い。口コミの力だろうか。

3. 研修会に参加した動機は何ですか (複数回答可)



「新しいまちの見方を学びたかった」「ワークショップの手法を学びたかった」「様々な人たちと交流を深めたかった」が多い。一般的な講義形式の研修会で学べないことへの期待が大きいようだ。

4. 研修会はどの程度参考になりましたか



5. 研修会に参加して、学んだことや気づいたことは何ですか（自由記述）

<いろいろな視点の重要性>

- ・いろいろな視点があっっておもしろかった。いろいろな声を聞くことの大切さがわかった。
- ・いろいろな職業の方が参加されていて、それぞれの視点でのまちを見ることができてよかった。
- ・グループのメンバーのそれぞれの得意分野を活かすことが大切だと感じた。
- ・自由な発言と発想の大切さを感じた。
- ・同じ道を複数の人たちで歩くと、それぞれの視点でまちを見るため、まとめをしながら他の人の意見がとても参考になった。

<まちを歩くことの大切さ>

- ・まず見ること、歩くことが大切であることが分かった。
- ・実際にまちに出てみるといろいろな気づきがあることが分かった。
- ・本やメディアを通じて知っているところも、実際に歩いていくことでより深く知ることができた。
- ・実際に歩いてみることで分かることが多く、その中から初めて会ったメンバーそれぞれについて徐々に分かってきたことも重要だった。
- ・仕事柄、建築物ばかり目に入ってしまうが、違う視点で見ることも大切であることを実感した。
- ・テーマを決めずまちに出て行くと、新鮮な気持ちで考えていける。しかし、難しくも感じた。
- ・テーマを決めずに歩きはじめても、グループで話し合いながら、なんとなく流れをつくっていけるものだと感じた。その方が、名所を探すようなまち歩きにならずよかったように思う。

<合意形成・協働の難しさ>

- ・短時間でまちを見て、まとめあげるという協働作業のおもしろさ、難しさを実感した。
- ・メンバーによってさまざまな発見があり、楽しい反面、初めての人たち同士で遠慮し合うことも多々あり、難しさも感じた。
- ・合意をとることの難しさを痛感した。世代が分かると意見をまとめるのが大変。
- ・まったく目的が違った人や目的を持たない人とグループを組んで1つのテーマをまとめることの難しさを実感した。

<ワークショップの有効性>

- ・まち歩きからマップ作成、プレゼンまでの流れ、手法などを学べた。
- ・ワークショップの手法をいろいろ研究してみたい。

6. 研修会で学んだことや気づいたことを、今後どのように地域で活かしていきたいですか（自由記述）

<まちづくりにおけるワークショップの活用>

- ・具体的に実践してみたい。
- ・まずはやることが大切と実感した。今日の参加者のような人たちが、全国に散らばっていると思うと心強い。
- ・協働を進めていく際に今日感じたことを活かしていきたい。
- ・現場を見ることを意識していきたい。
- ・今住んでいるコレクティブハウスの居住者組合と周辺の自治会との連携などに活用したい。
- ・仕事で地域のまちづくりに関わる機会があるため、今回学んだワークショップの手法を参考にしたい。
- ・卒論で地図や解析について取り組んでいるので、それに加えてワークショップの考え方もさらに学んでいきたい。

<イベント開催のノウハウ>

- ・所属しているNPOでまち歩きのイベントを予定しているので、進め方、グッズ、コンセプトなど、いろいろな意味で大変参考になった。
- ・勉強色をあまり出さずに、軽い気持ちで歩いてみませんかと、身近な人たちに声かけしてみたい。
- ・活動の現場で、地域住民や専門家の方たちと様々な発見をしたり、まちが抱える課題の解決などに役立てたい。
- ・市町村に対して学んだことを伝え、一緒にマップ作りをしていきたい。

<ワークショップの進め方>

- ・仕事で同様のまち歩きを計画している。住民を対象としたものでファシリテートを発揮していきたい。
- ・参加者全員の意見を引き出していくことの大切さを学んだ。今後のワークショップで積極的に活用したい。

- ・まちづくりに関するイメージの違いをどう合わせていくのか。同じ言葉について言及していても、違う思いがあるのかもしれないということ意識しないといけないと思った。なるべく多様な人の声を汲み取るよう心がけたい。
- ・今回はあえてテーマを与えない方法でのワークショップだったが、子どもたちを対象にする場合などは“テーマを与える”ことが大切だと改めて感じた。しかし、テーマを与えずにまずはまちを歩いてみようという考え方も重要であることがわかったので、子どもたちを対象とした場合も試してみようと思う。

7. 研修会に参加した感想等をご自由にお書きください（自由記述）

< まち歩きやワークショップの楽しさ・新鮮さ >

- ・今まで参加したまち歩きのイベントと違う点が多々ありとまどうこともあったが、いろいろな方と話しながら歩くということは、新しい発見があり楽しかった。今後活かしていきたい。
- ・いつもと違った視点で見ること、実践していくこと、楽しみながらやること、これらの大切さを実感した。

< 多様な人たちとの交流 >

- ・さまざまな方々の意見やまちの見方を知ることができ、有意義だった。
- ・まちの特性やまちづくりの目的の違う人とのワークショップのチャンスは貴重。とてもよい機会だった。
- ・全国の方が集まって来られていて、各地のまちづくり活動の事例も知ることができ、勉強になった。
- ・いろいろな業種の方々と話ができ、立場の違う視点からまち歩きができて参考になった。
- ・まちづくり慣れ、ワークショップ慣れしている方とそうではない方がおられ、一緒にやるのは難しいと再確認した。

< 共同作業の大切さ >

- ・みんなで参加して何かをつくり上げる研修会の形は大変よいと思う。そのまま地域に帰って使える部分もある。
- ・知らない参加者同士ではじめたまち歩きだったが、すぐに打ち解け、さすが“まちづくりバカたち”と思った。

< その他 >

- ・こういう企画は少ない。行政の方にももっと参加してほしい。
- ・場所や会場がとてもよかった。
- ・プレゼンでの発表者の方々は、グループの意見を簡潔にまとめて話をされていて、参考になった。
- ・いつも企画する側のことが多いが、参加者として参加し、勉強になった。企画や準備は大変だったと思うが、おかげ様で楽しく、内容も濃かったと思う。

[研修会概要]

- ・テーマ：協働の住まい・まちづくり～想いが重なる住まい・まちの実現に向けて～
- ・日時：平成20年4月22日(火) 13:30～22:00
- ・場所：旅館「鳳明館」(東京都文京区本郷)
- ・内容：まち歩き&資源マップ作り、交流会
- ・コーディネーター：
萩原なつ子氏(立教大学准教授、日本NPOセンター常務理事)
- ・ファシリテーター：
坂本憲治氏(市民社会創造ファンド プログラムオフィサー)
杉崎和久氏(練馬区都市整備公社練馬まちづくりセンター専門研究員、まちしゅう理事)